

平成27年度米子市美術館協議会議事録概要

開 会 （13：30）

岡文化課長挨拶

議題1 会長及び職務代理の選出

会長に長田昭夫委員、職務代理に高増佳子委員を選出

議題2 平成27年度米子市美術館事業報告について

（中村館長が資料に沿って事業報告を行う。以下、補足）

・平成27年度の総入館者数は12月末時点で60,308人となっているが、平成26年度の90,219人と比べて減少しています。これは、平成26年度は、日展（入館者約25,000人）とムーミン展（入館者約21,000人）という2つの大きな展覧会があったことによるものです。平成26年度は、年度末（3月末）までの総入館者数が、102,708人となり、美術館開館以来、初めて10万人を超えたという記録的な年となりました。

・特別共催展Ⅰ「安野光雅の世界展」は、新日本海新聞社様との共催事業で、15,157人の入館者がありました。同展では、米子市児童文化センターと米子市立図書館の協力を得て、司書による絵本の読み聞かせである「絵本のおはなし会」を6回行なったほか、安野光雅の原画にちなんだ童謡唱歌のコンサートとして「歌の風景ミニコンサート」を米子市文化ホールの協力を得て、「米子市音楽祭合唱の部」参加の5団体に出演していただき5回行なうなど、展覧会を盛り上げるための様々な関連事業を行いました。

・特別共催展Ⅱ「篠山紀信展 写真力」は、日本海テレビ様との共催事業で、15,414人の入館者がありました。通常の特別展では、有料入場者数のうち当日券での入場者と前売券での入場者の割合は半々くらい（「安野光雅の世界展」では、当日券51%、前売券49%）というのが一般的ですが、同展では、有料入場者数のうち当日券での入場者が78%、前売券での入場者が22%となり、当日券での入場者が多数を占めるという珍しい結果となりました。

・現在開催中の「戸田海笛展」は、オープニングセレモニーを行なった開幕初日には229人という多くの方に来ていただき、その後の平日も1日平均約70人の入館者があったことから、開幕から昨日までの4日間で合計442人の入館者がありました。

・市展・県展については、平成25年度はリニューアルオープン直後の開催で、市民の注目度が高かったこともあってか3千人を超える入場者がありましたが、近年は入場者数が減少傾向にあります。市展については、このままではいけない

いという危機感を持っており、現在、入場者数を増やすための改革案を市展運営委員会で検討いただいております、今月末の運営委員会で方向性が決まる見込みです。県展については、先日の県展運営委員会では出品者数の減少が問題として取り上げられていました。

・「米子市美術館所蔵品目録Ⅲ」をこのたび12年ぶりに刊行しました。1994年に「所蔵品目録Ⅰ」を、2003年に「所蔵品目録Ⅱ」を刊行しており、それ以降に収蔵した18作家、127点の収蔵作品を掲載したものです。

・貸会場事業ですが、秋の文化祭の入場者数については、平成26年度が13,940人だったのに対し、平成27年度は12,343人とやや減少しました。参加団体数は両年度とも30団体で増減ありませんが、近年減少傾向にあります。

(長田会長) 説明のあった事業報告について委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。

(高増委員) 毎年いろいろな事業を組まれ、多様な取り組みをされているのは素晴らしいと思いますが、毎年、事業報告が参加者人数、入館者数などの数での報告となっています。確かに入館者数が多いか少ないかが美術館運営の評価の大きな部分を占めていると思いますが、事業費のうち入場料がどれくらい集まったかなども一つの評価軸なのかなと思います。金額的なことを示されるのは難しい面もあるかもしれませんが、前年度に比べて売上げが多かったとか、少なかったなどの報告もあってもいいのかなと思います。

(中村館長) 大きな展覧会である特別共催展についてですが、先程、今年度実施した2つの特別共催展(安野展と篠山展)について、ともに1万5千人を超える入場者があり、まずまず成功だったのではないかと申し上げました。ともに宣伝力のあるメディア(新聞社とテレビ局)との共催ということで、集客には結びついたと思いますが。残念ながら、収支については、ともに支出が収入を上回り赤字となりました。

(高増委員) 美術館の運営は展示事業だけでなく、貸館事業などいろいろな事業で成り立っていると思いますが、貸館事業などの収支状況も合わせて報告してもらえるといいと思います。

(中村館長) 準備が必要ですので、次年度からは報告することとします。

(高増委員) 差し支えない範囲で結構ですので、よろしく申し上げます。それ

と、特別展は一番の目玉なので、本来なら赤字にならないように開催できればいいと思いますが、その辺りの対策があればという気がします。

(中村館長) わかりました。今後検討します。

(湯原委員) 美術館の評価として数字での評価という話が出ていますが、美術館の目的を考えたときに、もう一つの評価としてアンケートがあるのではないかと思います。単に入館者を増やすことだけを目的に美術館の運営を行なっているわけではなく、アンケートの中身や返ってくる言葉の豊かさに評価すべき面もあると思います。市内外から特別展に来館された方が、文化的に豊かになられたとしたら美術館の取り組みとして大いに評価すべきことであり、その積み重ねの中で物事が前に進んでいくものだと思います。美術館としては、特別展の入館者が減ったということだけで悩まれるのではなく、アンケートで返ってきた言葉の豊かさに自分たちがやってきことの良かった部分をもっと評価してもいいのではないかと思います。

(中村館長) 評価として一番わかりやすいのは数字だとは思いますが、アンケートの中身を委員の皆様に見ていただき、それついでの評価を皆様にしていただくことも必要かと思えます。それぞれの展覧会でアンケートの記入をお願いしており、これから集計表を回覧させていただきますが、概ね高評価をいただいております。

(高増委員) 先程の意見に同感で、確かに数字で測れる部分と測れない部分があるかと思いますが、美術館の評価については、数字で現れない部分がむしろ重要かとも思えます。アンケート結果については量が多くて集計も大変でしょうから、目立った意見だけでも紹介いただければいいのではと思います。

(森田主幹) 昨年からのモニタリング評価の第三者評価を委員の皆様をお願いしており、その書類の中にアンケート結果を集計したものをつけております。それに対して委員の皆様にご意見を記入していただき、文書で提出していただく形をとっております。

(長田会長) 先日、茨城県結城市長が戸田海笛展の開会に合わせて米子市美術館に来られました。結城市民の中には「喜怒哀楽の図」レリーフを手放すのを惜しむ声もあるなか、結城市には美術館がないこともあり、海笛の郷土である米子の子どもたちや次世代を担う人たちに作品を見てもらったほうがよいとい

う思いから米子に里帰りさせることを決断されたとのことでした。近隣には島根県立美術館や鳥取県立博物館など米子市美術館より大きな美術館がありますが、規模がすべてではありません。米子市美術館は市の中心部にあるのが特徴だと思いますので、あるものを上手にを使って、賑わっている図書館とも一体となって芸術活動を盛り上げていくことで、淀江町との合併で市域が広がった米子の地域創生につなげていければと思います。

毎年、話が出ているように郷土作家の作品を紹介し、地域の喜びを共有するという役割を持って美術館の方でもいろいろな事業を企画されていますが、美術館の業務にさらに磨きをかけていくという意味で皆様には遠慮なくご意見をいただきたいと思います。

(湯原委員) 小・中学生についてですが、学校が生徒を引率して美術館の展覧会に出向くというのは時間的な制約もあり難しい面があるかと思いますが、一つの案として、展覧会期間中に学校で宿題を出して、自分が一番気に入った作品を選んで報告するという課題を出せば、生徒は展覧会をしっかりと観て来るのではないかと思います。宿題ということにすれば、出さないといけないという義務感が生じるので作品としっかり向かい合う機会を設ける意味でも記名の上で、どの作品がよかったとか、どういう理由でこの作品を選んだかといった報告を求めれば、相当熱心に取り組むのではないかと思います。ただし、観覧料が有料であれば、そういった宿題は出しにくいので、小・中学生は無料にするといったことは必要かと思いますが、保護者が必ず付いてこられるので、保護者には観覧料をお願いすることで、入場料収入の増加が期待できます。こういった仕掛けを行なっていくことも一つの考えだと思います。

(入江淑元委員) 先程アンケートのことが出ましたが、的外れな意見かもしれませんが、選挙のときに出口調査を行うとかなり正確な統計が出るように、特別な企画展のときに観覧を終えた方にさりげなく、どうでしたかとか何が良かったですかといった質問を小まめに行なうことでお客様の意向が掴めるのではないかと思いますがいかがですか？

(中村館長) 顔見知りの方に出会った時に感想を聞くことはありますが、出口調査という形では行なっておらず、アンケートに記入していただくという形をとっています。アンケートについてもただ渡すだけではなかなか回収率が伸びないので、回収率が上がるように受付で用紙を渡すときにぜひ記入していただくよう申し添えています。

(奥田委員) 美術館に足が向く事が少ないということですが、我々関係者は美術館がここにあることはよくわかっていますが、一般の方の中には美術館の場所を知らない方もたくさんおられます。私はここから近い湊山中学校に勤務していましたが、美術館の場所を知らない子供たちがたくさんいて驚いた経験があります。近年、子ども向けの展覧会も企画されていますが、親子で美術館に来れば、子供たちの中に美術館が米子にあるという記憶も残ると思いますので、そういった取り組みも大事かと思います。

(高増委員) 高専の学生にも美術館に行ったことがあるか毎年授業で聞くのですが、行ったことがない学生や場所さえ知らない学生も多くいます。大きな展覧会ときには看板を立てられることもあるかと思いますが、9号線側からは美術館の建物の裏側が見えているので、9号線側にここに美術館があるという掲示ができればいいとずっと思っており、そういったものがあるかないかでもPR効果は大分違ってくるかと思います。それと民有地を横切ることになるので難しいかとは思いますが、小さくてもいいので商店街側から美術館に入れる通路があると気軽に立ち寄りやすいかとも思います。

議題3 平成28年度米子市美術館事業計画について

(今副館長が資料に沿って事業計画を説明する。以下、補足)

・特別企画展「生誕100年 國頭繁次郎展」は、平成17年に新米子市誕生記念として常設展の枠で鳥取県立博物館や近隣の所蔵者から作品をお借りして開催した「國頭繁次郎展」をブラッシュアップした形で計画しています。

・特別共催展「生誕100年 ターシャ・テューダー展」についてですが、ターシャ・テューダーは、アメリカの絵本作家の第一人者で、米子市立図書館にも蔵書が70点近くあるほか、年末にはBSで特集番組が放映されるなど特に女性に人気が高い方です。同展は、より多角的なメディアとの連携を図るという意味でも山陰中央テレビ様との初めての共催という形で計画しています。昨年度開催した「ムーミン展」でも親子で楽しめる絵本の原画展への要望は高かったですが、同展の巡回先での評価も「ムーミン展」と同等もしくは、それ以上に高い地域もあるとのこと。また、同展は、米子市美術館としては初となるととり花回廊との相互優待制度や一般社団法人鳥取県造園建設業協会西部支部のご協力でターシャ・テューダーが生前造った庭をイメージしたガーデニングを美術館入口で特別展示するという趣向も考えています。会期はゴールデンウィーク辺りから約1ヶ月を予定しており、1年で一番、花がきれいで、花回廊の入場者も多い時期とのことですので、日頃、美術館に馴染みがない方やガーデニングが趣味の方にも美術館にお越しいただけるよう準備を進めている

ところでは、あわせて、米子市立図書館及び児童文化センターとの連携による絵本のおはなし会や各施設でのターシャ展特設コーナーの設置など、幅広い世代の方に楽しんでいただける関連事業により展覧会を盛り上げていきたいと考えています。

・若手作家支援展では坂本和也という画家を取り上げる予定です。当事業は、地元では普段なかなか目にする機会の少ない郷土ゆかりの若手作家の展覧会を開催し、その活動を紹介することで将来有望な若手作家の育成を図る事業です。前回開催した「井田大介展」は各新聞社やテレビ局にも取り上げていただきましたが、井田大介氏は今年2月に川崎市の岡本太郎美術館で開催された第19回岡本太郎現代芸術賞に出品作品が入選するなど着実に成果を上げています。

・常設展Ⅱで計画している「米子美系男子図鑑（仮称）」は平成21年に女性をテーマにして開催した「美人図鑑」の男性版です。

（長田会長）事業計画について委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。

（高増委員）基本方針と重点施策はわかりやすくまとめられていて十分な内容だと思います。

（長田会長）美術館の方針として郷土作家を大事にするとか、教育的な面に力を入れるとかこれまでいろいろな意見が出ていますが、米子市美術館だけの特徴と言いますか何か起爆剤になるようなものがあればと思います。この部分に特に力をいれてほしいといったことがあればご意見をお願いします。

（高増委員）一つ提案ですが、現在、県立美術館構想の委員会が立ち上がっています。現段階では、建設地は鳥取市か、近くてせいぜい倉吉市という案が有力のようで、米子は難しいかもしれませんが、県立美術館のハコそのものは東部か中部に建設されるとしても実際の運営面でサテライト的に米子も県立美術館の枠組みに入れてもらって、うまく連携できればと思います。例えば、展示をする時に県立美術館だけでなく、米子市美術館の一室も使うとか、街中の空き家・空き店舗を使って県内の展示を見て回るツアーを企画するなどすれば、県外からも人を呼べるのではないかと思います。

それと先程、長田会長が言われたように美術館はすごくいい場所にあるので、何かもっといい取り組みができれば、もっと目立てるのではと思います。以前、美術館前の広場でマルシェ（マーケット）などをされていた気がしますが、定期的にそういった方々とうまく連携して、大きい展示の時にマルシェを開いてもらうとか、美術館の職員が動かなくても、そういった方々の力を借りた取り

組みができれば、商店街の戸板市などはすごく賑わっている印象があるので、美術には興味がない、または敷居が高くて足が向かないがマルシェには興味があるといった人を呼び込めるのではないかと思います。

(柴野委員) 平成27年度に貸館で美術館の展示室をお借りしました。私達は小さい団体なので、うまく展覧会を開けるか開催前はとても心配していましたが、3日間にしては非常に多くの方々に入場していただき、盛況のうちに展覧会を終えることができました。リニューアル直後はすごく使いにくい部分がありました。このたびは美術館の職員に大変お世話になり、感謝しております。

(福島委員) 最近、子どもたちが美術館を見学している姿をあまり見かけませんが、昔は、学校の先生に引率されて、生徒が美術館を見学している姿をよく見かけました。最近の状況はいかがですか？

(中村館長) 「安野光雅の世界展」のときに、中学校・高校の美術部や幼稚園、保育園に来ていただきましたが、美術部限定で学校単位ではありません。

(福島委員) 私達が小さかった頃は、学校単位で美術館に連れて行ってもらい、見学させてもらったもので、その当時は美術館に対して特別どうこうといった感情はありませんでしたが、子どもの頃の経験は記憶の中に残るものがあります。そういった経験で美術館はここにあるという認識が自然と身に付くものかもしれません。また、中学・高校になるとこの絵は上手いとか下手とか思い始めるので、そういったことを思わない小学生くらい小さいときに絵を見ることで何か得るものがあるのではないかと思います。最近、学校はそういった美術館の見学のようなことをやりにくくなっているのですか？

(高増委員) 今の小学校の枠組みの中で、学校はすごく忙しくなっているので、生徒を美術館にゆっくりと連れていくというようなことはやりにくくなっているのではと推測できます。ただし、山陰歴史館に行くという話は聞きますので、小学校の先生方に美術館をPRしたり、小・中・高校の美術の先生に今度こういった展示をやりますといった案内をすれば、熱心な先生は生徒を美術館に連れて来られるかもしれないと思います。先程言われたように、できるだけ小さいうちに、まだ訳が分からないうちに美術館に連れていき作品を観るという経験はすごく大事なことで、後々まで残るものだと思います。

それと夏休みに作った作品や学校で作った作品の優秀者の展示を児童文化センターで小まめにされていますが、自分の子の作品が展示されると親は必ず見

に行くので、そういった展示を美術館でも行なえば、あわせて他の展示も観てもらえるのではと思います。

(福島委員) 美術館だけに来てもらうのは難しい時代のようなので、図書館・美術館・歴史館という文化施設を3点セットで、このゾーンを歩いて回るということを、年に1、2回は学校が教育として行なってほしいものです。

(高増委員) 先程、湯原委員が言われたように、宿題にするというのもいい案だと思います。最初は興味がなくても、見に来たことをきっかけに興味を持つということはあると思いますし、宿題の子どもは無料でも、付き添いの親が有料であれば収益にもつながるので、そういった取り組みは市としても考えていただきたいと思います。それと学校にも展覧会のチラシは設置されていますが、生徒の人数分配らないと親の目には絶対に触れないと思います。白黒のコピーでもいいので生徒全員に配布すれば、それを目にした親で興味のある方は必ず子どもを美術館に連れて行くと思うので、そのようにしていただければと思います。

(今副館長) 今年度開催した「安野光雅展」は、小学生以下無料、「篠山紀信展」は、小・中学生も有料とさせていただきますが、平成28年度に予定している「ターシャ・テューダー展」は、ドールハウスや絵本などの気軽に鑑賞できる展示を美術の入口として活用していただくことについて、共催の山陰中央テレビ様に賛同していただき、中学生以下無料で開催することとなりました。

(福島委員) 特別展は賑やかすぎるので、常設展などの館蔵品展であり入館者がいないときに、市内の小学生に先生方と一緒に郷土作家の作品を観てもらい、郷土出身でこんな人がいるということを知ってもらうのがいいと思います。

(中村館長) 言われるように、郷土の作家を小さい子どもたちに知ってもらうためには、常設展を見ていただくのが一番いいとは思いますが、残念ながら、常設といいながら、スペースの都合上、常設の部屋がなく、年に2、3回、期間限定で常設展を開催しているのが現状で、その期間にあわないと見ていただけないという難しい面があります。それと宿題にという話が出ましたが、ここ数年、夏休みの宿題として、美術館で作品を観てレポートを提出するといった宿題を出されている中学校の美術の先生もおられると聞いています。また、学校から美術館に来ていただくような仕掛けがあればとの話については、昔は1日学習という小学生が校外に出て児童文化センターや美術館などのいろいろな

施設を見て回るというものがありませんでしたが、今はなくなっているようです。ただし、郷土を知るといふことで山陰歴史館には小学3年生が必ず行く事になっているようですので、平日もたくさん入館者がいる図書館とは違って美術館は一般的に敷居が高く見られがちで入りにくいという面もあるかと思いますが、小さい頃の体験が将来花開くということはあるかと思いますが、小さい子どもたちに美術館に来てもらう機会をできるだけ多く作っていったらと思います。

(入江淑元委員) 市内の小学生は、毎年、小学4年生になると水道局などの施設を見学に行くと思いますが、美術館はそういった社会科見学の対象とはなっていないのですか？

(湯原委員) それは可能だと思いますが、校長の考え一つだと思います。小学校にも英語教育が入ってきたり、中学の英語の時間が増えたりなど今の学校は限られた時間の中でいろいろな事をやらなければならなくなっていますが、美術が教育に有効だと認められ、学校の計画の中に組み込まれれば、学校が生徒を美術館に連れて行くという事も出でくると思います。一つの方法は小・中学校の美術に造詣の深い先生と親しくなって、美術館をアピールし、利用してもらうよう働きかけていくことだと思います。本日は欠席されていますが、美術館協議会委員の中にも小・中学校の校長が入っておられるのでそういった方に話しに行くのも一つの手かもしれません。

(奥田委員) 中学校は今、言われたとおりかもしれませんが、小学校は社会科見学には必ず行くので、計画の中に入れてもらえばいいだけの事だと思います。

(高増委員) アートスタートということで、小さい子どもにも美術や演劇などに触れさせる取り組みを県内でされていますが、幼稚園や保育園でも子どもの作った作品の展示を園内で毎年されています。その中の優秀者の作品を美術館で展示できたら、まだ時間に余裕がある幼稚園や保育園の子どもたちは、美術館に来やすいし、子どもたちにとっても励みになると思います。また、親御さんも必ず見に来られると思うので、そういった取り組みができたらと思います。

(湯原委員) 今言われたことは、小・中学校ではやっています。

(今副館長) 幼稚園については、あけぼの幼稚園などが園の方針でされています。それと、ジュニア県展(小・中学生対象)という展覧会もあります。

(福島委員) 発表することも大事ですが、単純に、ここに美術館がある、図書館がある、歴史館があるということを小さい時に子どもなりにわかってほしいです。海外の美術館では、子どもたちは作品を割と静粛に鑑賞するのですが、米子の子どもはそういったことに慣れていないというか、マナーができていない面があると思います。そういった意味でも美術館に足を運んでほしいです。

(入江康子委員) 幼稚園の子どもたちが先生に連れられて、私達の絵を観にきているのは、よく見かけます。

(岡課長) 我々も子どもさんに来ていただくために、小・中学生の入場料を無料とした展覧会を行ったりしています。昨年、高校生以下無料という画期的な料金設定で開催した日展では、17年ぶりの開催ということもあり、多くの方に観ていただこうと小・中学校を回り、校長先生にぜひこの機会にご観覧いただきたいという話をさせていただきましたが、カリキュラムのことなどがあり、学校単位で見に行くのは難しいものがあるとのことでした。結局、その時も、学校単位で来られたところも中にはあったかもしれませんが、美術部単位などで来られた学校が多く、現状は学校の全生徒が見に行くという形にはなかなか難しく考えています。近くに歴史館や米子城などもあり、米子の歴史や文化を一人でも多くの子どものさんに知っていただきたいですが、学校行事の中では消化し切れない部分もあるようですので、家に帰ってから家族と一緒に来ていただけるように、子どもから大人まで楽しめる展覧会を企画し、テレビや新聞などの媒体を使うなどいろいろな形で積極的にPRしていくことで、興味を持っていただくしか当面はないかと思います。もちろん機会があれば、教育委員会から学校の方にも継続してほしいと思っています。

(福島委員) ぜひお願いしたいと思っています。米子の界隈は大山や海などの豊かな自然に恵まれた非常にいい場所ですが、その良さを知るためにも、子ども達をその自然の中に連れ出すとともに、文化施設などもあわせて見て回ることで、郷土の良さを知ってほしいと思います。

(長田会長) 事業計画の内容は非常に盛りだくさんで、郷土のため、子供達のため、あるいは市民の皆様がいい作品を鑑賞していただくためなど美術館の目的はいろいろあるかと思いますが、この部分はこうしたほうがよいといった意見を各委員が持ち寄ってまとめ、美術館を所管する教育委員会に伝えるのがこの会の役目です。米子のためにある美術館だというのが基本ですが、図書館に隣接するとともに中心市街地にあるという地の利を生かした活用法を考えてい

ただければと思います。他に何かご意見がございますか？

(生田委員) 一つ質問があります。市展で出品料をいただくことについて、話の出所とその内容を教えてください。

(中村館長) 前回の市展運営委員会の中で委員から提案いただいたものです。最終的には今月末の市展運営委員会で諮られ、正式に決定されるものですが、出品料は、1作品につき1千円という案が出ています。

(入江淑元委員) 展覧会事業で計画されている「ターシャ・テューダー展」は非常にいいものだと思いますが、展覧会の内容については、共催者の山陰中央テレビと東映の側でほぼ決められるということになりますか？

(今副館長) 生誕100年を記念して、国内を巡回する展覧会ですが、会場によって大小があるので、各会場で趣向を凝らして構成をしたり、展示プランを組んだりすることとなります。

(入江淑元委員) 先程、話のあった庭のディスプレイは煮詰まった計画ですか？

(今副館長) とっとり花回廊様からご紹介いただいた鳥取県造園建設業協会様のご協力で、美術館の前庭に期間限定でターシャの庭を再現する予定です。これは、美術館の敷居が高いイメージを払拭し、気軽に美術館にお越しいただけるようにという意図で企画したものです。

(入江淑元委員) 先程から各委員から子供たちにもっと美術館に足を運んでほしいという意見が出ていますが、ターシャ・テューダーはすでに亡くなっているとはいえ、優れた絵本作家ですので、子供向けのいい展覧会になると思います。また、今やガーデニング人口は5千万人とも言われ、平成25年に鳥取市の湖山池で開催されたガーデニングのイベントも非常に好評でしたが、そういったガーデニングの愛好者も集まって賑わっていけばいいと思います。

(今副館長) 植物は美術館とは相容れない所がありましたが、作品の中にも自然を美しく描いた絵がありますし、ムーミン展と同じく絵本原画の展示ということもあるので、お花をキーワードに小さい子どもさんたちにたくさん来ていただけるよう、関係機関と連携して準備を進めているところです

(長田会長) 続きましては、議題4といたしまして、「戸田海笛「喜怒哀楽の囃」レリーフの設置について」の審議に移ります。この案件は、現時点では非公開となっている米子市の平成28年度予算にかかるものであり、審議は非公開で行ないますので、皆様よろしく願いいたします。それでは、まずは事務局から説明をお願いします。

(岡課長) 当案件については、新年度予算の公開が来週月曜日(2月22日)に解禁ということもあって、それまでは伏せておいていただきたいと思えます。

戸田海笛作「喜怒哀楽の囃」レリーフをブロンズ化して美術館正面に設置するという帰郷100人委員会の事業計画については、昨年度の美術館協議会でお諮りし、市がブロンズレリーフの寄贈を受ける方向で差し支えない旨の承諾をいただきました。ただし、100人委員会からご提案いただいていた、美術館の正面に向かって右手の外壁にレリーフを直に取り付けるという設置方法は、美術館の建物自体が傷むなど、建物に対する影響が出てくる可能性があるのも、その辺りは十分に検討してほしいといったご意見や設置位置や色、デザインについても十分に検討してほしいといったご意見を委員の皆様からいただき、市としても、レリーフをお受けする方向の中でその辺りの詳細はこれから具体的に詰めていきたいという所で話が終わっていたと思えます。

壁に直付けで設置した場合、安全性や建物に対する影響はどうかといったことについて、建築士や美術館改修の際に指導を受けた文化庁の指導官といった方々にご意見を伺ったところ、美術館は建物自体が古く、建設当時のままの外壁はあちこちに痛みも出てきているので、壁面に直付けというのは危険性もあるのではということでした。

このことを受けて、100人委員会と設置方法を再検討することとなり、協議を重ねてまいりましたが、最終的に、美術館の建物自体にも影響がなく、見栄えも良くなるということで、壁面に直付けではなく、壁から離して自立した形で設置することに決定いたしました。資料にある図面のように、壁面からだいたい1.8m位離れた位置に、周囲を石材かコンクリートの枠で囲ったブロンズレリーフを自立型で設置する形になります。

しかし、その後、100人委員会が自立型での設置費を業者に見積もったところ、100人委員会が当初の事業計画で見込んでいた設置費を遥かに上回る金額(1千万円超)となりました。そこで100人委員会は、約1,100万円集まっている寄附金の大部分は、石膏レリーフの修復費、レリーフのブロンズ鋳造費、運搬費などの諸経費に充てることとなり、設置費の捻出までは難しい、設置費は市で負担していただけないかと市に相談に来られました。

市としましては、多くの市民の方が係わられて、茨城県結城市に眠っていた

郷土作家の作品が米子に戻ってくるころまで漕ぎ着けたということも考慮するとともに、美術館の前にレリーフを設置し、多くの方に見ていただくことは、本市の文化振興や美術館の運営にも資するものであると期待できることから、市が設置費を負担することといたしました。約1千万円見当の設置費を、市の美術品取得基金から支出する形で平成28年度予算として要求しています。本日の協議会では、先ほど申し上げたレリーフの設置方法と約1千万円の設置費を市の美術品取得基金から支出することについて、委員の皆様にご了承いただきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

(長田会長) 100人委員会は、石膏作品はいずれ朽ち果てるが、ブロンズ化すれば永久に残るので、ブロンズ化したレリーフを美術館の敷地に設置したいという考えで活動してきました。当初計画していた壁に直付けの設置方法では、市としては受入れられないとのことで、設置時期が延びていますが、100人委員会としましては、ブロンズレリーフの鋳造を終えるなど約1千人の寄附により計画が実現する手前まで来ているので、最後の設置の部分を何とか市の予算でお願いしたいと市に相談し、市としても考えていただいたというのがこの間の経緯です。

(高増委員) ようやく海笛展が始まり、実際にブロンズレリーフが設置されるころまで来たということで、100人委員会の方々の大変なご努力があったのだと改めて思います。寄附者のお名前はどこかに掲示される予定ですか？

(長田会長) 寄附者全員となると大変な数になるので無理ですが、ある程度、高額な寄附者については掲示方法等も含めて、現在検討中です。

(高増委員) 設置工事費だけで約1千万円と非常に高額ですが、せっかくここまで100人委員会の寄附金で計画を進めてこられたので、工事に関しても寄附的な意味合いで、少し安く施工してもらえる業者に頼んで、その代わり業者の名前を入れるというような形で費用を抑えることはできませんか？

(岡課長) 工事に関しては、市が責任を持って行なうもので安ければいいという訳にはいきません。入札の手続きを経ることとなります。それと工事の時期ですが、「ターシャ・テューダー展」が終わってから、秋の展覧会シーズンが始まる前までの6～8月にかけてを予定しています。

(湯原委員) レリーフ設置の計画が行き詰っているわけではなく、実現が見え

てきたということでもいいですか？

(岡課長) はい、そうです。市の役目としては安全性と見栄えに配慮しつつ、レリーフの設置費を市で予算化しようというものです。

(湯原委員) この作品は写真で見て知っていましたが、残念ながら最終段階で漏れてしまいました。何年か前に戸田海笛を中学校の美術の副読本に入れようという話もありました。今日、石膏レリーフを見ましたが、ものすごく力の強い作品なので、レリーフの周りを囲む枠の石の色の重厚感などで作品を押さえ込む必要があります。ですので、設置位置は計画通りでいいですが、レリーフの枠の色や材質は、プロの方と相談して決めてほしいと思います。私としてもレリーフが設置されることはすごく嬉しいです、よくここまで頑張ってきたと思いますので、ぜひ最後まで計画を進めていただきたいと思います。

(高増委員) 湯原委員の意見に同感で、枠がどういうものかによって作品の印象が随分変わってくると思います。図面では外壁と同じタイルとなっていますが、これだけではわからないので、色のついた図面か写真のコラージュを設計士に提出してもらって、本当にこれでいいかどうかを美術館の学芸員さんにも判断してもらったほうがいいと思います。作品を際立たせるためには、外壁と同じタイルでなくて、コンクリートの打ちっばなしのようなものの方が合うといったこともあるかもしれません。

(岡課長) 素材は花崗岩です。現時点では最終的な設計が出来上がっていないので、完成予想図のようなものは出せませんが、色などがはっきりわかれば、その辺りは検討していきたいと思います。

(長田会長) それでは、委員の皆様、事務局から提案のあったレリーフ設置案について賛成の方は挙手をお願いします。(※ほぼ委員全員が挙手) 賛成多数ですので、事務局の提案は承認されました。

(岡課長) 協議会のご承認をいただいたということで、こういった形で進めさせていただきます。

(長田会長) 他にないようですので、以上で美術館協議会を終了いたします。

閉 会 (1 5 : 4 0)